

子どもにやさしいまちづくり事業(CFC I) 2021年度取り組み内容及び自己評価結果について

市は、(公財)日本ユニセフ協会から委嘱を受け、2018年から2年間は「日本型子どもにやさしいまち」の検証作業に参加し、2021年12月には本格実施を行うための覚書を同団体と締結し、「子どもにやさしいまちづくり事業」を推進しています。

今回は、2021年度の取り組み内容及び、2022年1月に実施した自己評価結果をご報告します。

【2021年度取り組み内容】

2021年度に実施した取り組みは、2020年度に試行的に実施した自己評価結果に基づく改善事例です。

<新たな取り組み>

①新規採用職員向け研修

CFC Iチェックリスト項目1-3「子どもの意見尊重、子ども主体目線に関する、職員向け研修」を実施するため、職員課と協働し、CFC Iに関する研修を「新規採用職員向け研修」に組み込みました。

講師・内容：<一部> (公財)日本ユニセフ協会の三上シニアマネージャー
「ユニセフの取り組みについて」

<二部>町田市の担当職員「町田市の取り組みについて」

参加者数：新規採用職員47人

②保育士向け研修

CFC Iチェックリスト項目8-4「子どものために働く者を対象とした子どもの人権研修」を実施するため、子育て推進課と協働し、市内公立保育園の保育士を対象に、子どもの人権に関する研修を実施しました。

講師・内容：(公財)日本ユニセフ協会の三上シニアマネージャー
「乳幼児期から人権を考える」

参加者数：市内公立保育園保育士等113人

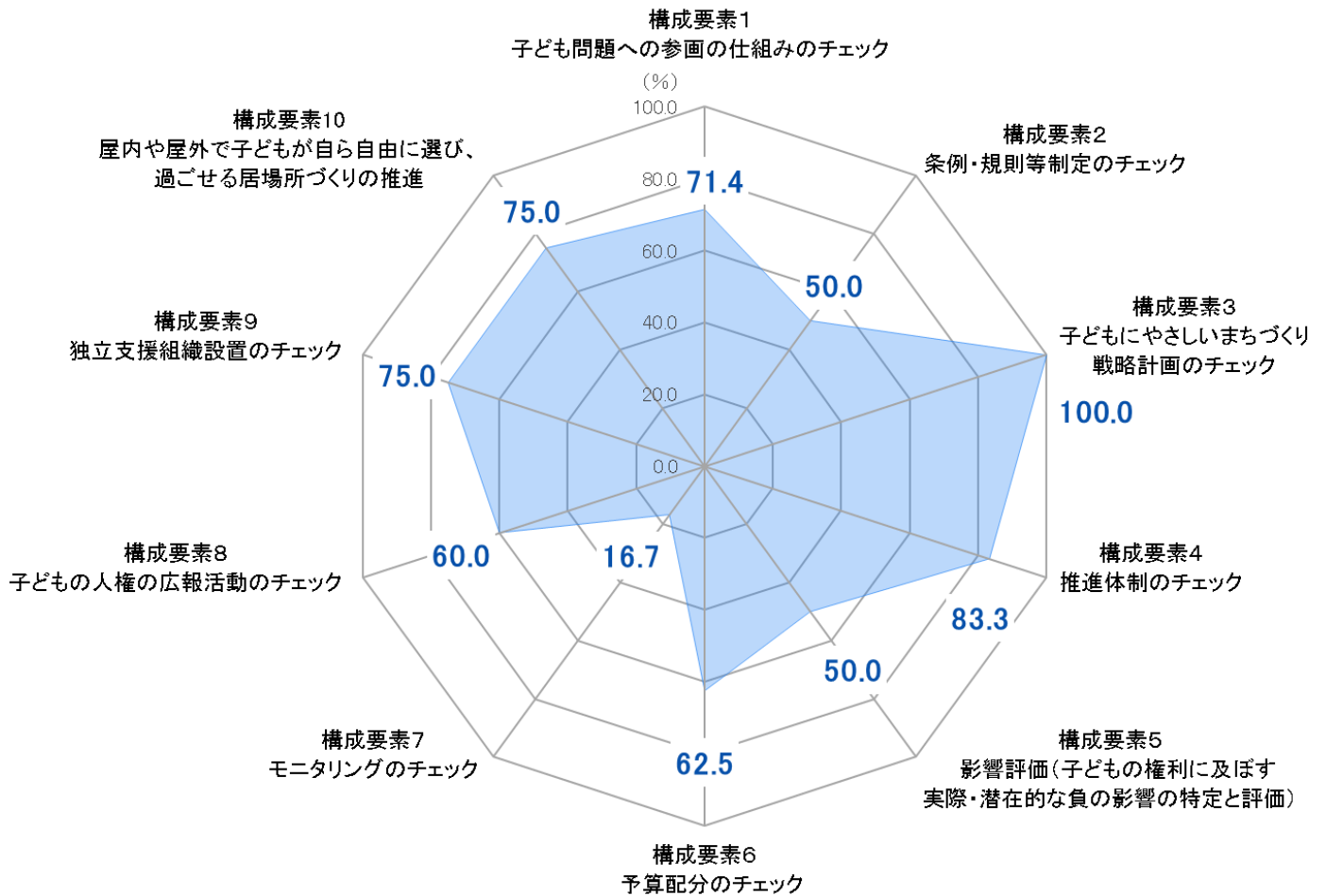
<検討中の取り組み>

CFC Iチェックリスト項目9-1「幅広く適切な範囲のNPO、企業等とのパートナーシップ」を発展させるため、子どもセンターの地域支援機能を強化する「(仮称)地域・子ども総合拠点整備」を検討しています。

また、チェックリスト項目1-1「行政活動全般にわたって、子どもの権利条約12条(子どもが意見を表す権利を持つこと)の原則が反映される仕組み」を発展するため、市政を考える高校生グループと共に市の課題解決を図る取り組み「MSP」の更なる推進を検討しています。

【自己評価結果（2022年1月時点）】

2022年1月に、『ユニセフ「日本型子どもにやさしいまち（CFC）モデル構成要素10項目及びチェックリスト」（町田市版）』を用いて、自己評価を行いました。各構成要素の達成状況は、以下のとおりです。



※レーダーチャートの割合は、ループリック評価の◎を10点、○を5点、×、—を0点とした合計値を各構成要素の満点で除した数値です。

構成要素	項目数	◎	○	×	—	配点	得点	達成度
1 子ども問題への参画の仕組みのチェック	7	3	4	0	0	70	50	71.4
2 条例・規則等制定のチェック	5	1	3	1	0	50	25	50.0
3 子どもにやさしいまちづくり戦略計画のチェック	9	9	0	0	0	90	90	100.0
4 推進体制のチェック	3	2	1	0	0	30	25	83.3
5 影響評価	6	2	2	2	0	60	30	50.0
6 予算配分のチェック	4	1	3	0	0	40	25	62.5
7 モニタリングのチェック	3	0	1	1	1	30	5	16.7
8 子どもの人権の広報活動のチェック	5	2	2	1	0	50	30	60.0
9 独立支援組織設置のチェック	4	3	0	1	0	40	30	75.0
10 屋内や屋外で子どもが自ら自由に選び、過ごせる居場所づくりの推進	6	3	3	0	0	60	45	75.0

担当: 子ども生活部 児童青少年課